

酒々井町郷土研究会々報

第32号
昭和59年4月1日 発行
酒々井町郷土研究会 総務部

石佛のこころ(三)

相京晴次

馬頭観音

観音さまには、たくさん種類があります。聖観音、十二面観音、如意輪観音等々であります。いずれも衆生を救ってくれる観音として慈悲相の柔和なお顔であります。

馬頭観音は頭上に馬頭を戴き忿怒(いかり)相であります。慈悲では救えないものを忿怒によって救うというのが本来の使命であります。馬頭を戴いているところから、いつのまにか、馬の供養、馬の無病息災を願

う佛となつてしまいました。

姿も一面二臂(腕)三面相、四、六、八臂と種類があります。が、当時の馬頭観音は一面二臂が大部分であります。

馬頭観音のあるところは路傍、死馬捨場、墓地入口等々あります。

当町には像のあるもの二十一基、文字だけのもの三十余基あります。

墨、尾上、飯積、上岩橋に比較的によく、酒々井、上本佐倉には、どうしたことか一基も見当らないのが不思議です。

昔は人の生活にとって馬は重要な役割を果していました。そのために供養のために多くの馬

頭観音がつくられたものでしょう。

ちなみに、明治二十四年当時の酒々井町には二三頭の馬が居りました。

酒々井四〇、上岩橋三九、馬橋、墨各二一、尾上二〇、伊藤一七頭(以下略、陸軍徴発物件一覽)と多く飼育されておりました。

多宝如来



多宝如来は釈迦が説法していと、地中から塔が湧きでて、中から多宝如来が現われて法華経を讚美したといわれます。よつてこの説に従い、多宝塔の中に釈迦と共に安置されるようになったといわれています。

当時の石佛は本佐倉に八基、上岩橋に五基、をはじめとして上本佐倉、柏木、伊藤などに分布しております。

六地藏



六地藏は、地藏が六道(地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・至上道)を巡って衆生を救い極楽に行けるように力を貸してくれるという信仰を六つに分身して、六地藏として信仰するようになったので、石佛の形式も、丸彫り、光背つき、六角形石幢に彫られたものがあります。

当町には十三組の六地藏があります。置かれている場所は寺院の入口又は境内、墓地入口などが主であります。

- ◎ 丸彫りは、柏木新光寺、浄泉寺入口、本佐倉吉祥寺入口の三ヶ所にあります。
- ◎ 光背つきは、馬橋、中川、大鷲、下岩橋二、酒々井な

ど、六ヶ所にあります。

◎ 六角形は尾上ニ、上郷、墨の四ヶ所にあります。

以上十三組の六地藏中で造像の勝れているものは、柏木新光寺の丸彫り像です。

以下次号

印旛の橋 (二)

日生

(2) 平方橋

印旛村平賀と、成田市下方を結ぶ橋で長さは六三メートル、農道橋で交通は少ない。この付近釣人は多い。

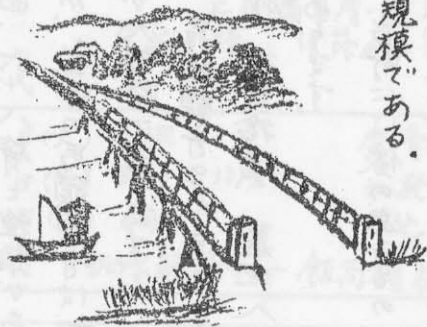
(3) 中平橋

中川と平賀を結ぶ、中川の渡しに昭和四三年に架けられた橋で、長さは六三メートル、中六メートル、印旛村と酒々井町との交通に大きな役割を果している。

(4) 飯田橋

佐倉市飯田と平賀堂下とを結ぶ、旧飯田渡し付近に架けられた橋である。この橋も主要道路に直結しないために交通は少ない。

土地改良区の揚水機場が近くにあり釣人が多い。橋は長さ四五メートル、巾四メートルと小規模である。



(5) 印旛大橋

旧印旛沼時代に佐倉市菘山と印旛村山田間に昭和三三年に架けられた橋である。

この頃は印旛沼が広く、兩岸

から土堤を伸し中央部に木橋が架けられた。地盤が軟弱なために難工事となったが、この橋が

できにために佐倉、印西間の交通が展げ、主要国道となり、バスも通り、印旛沼として画期的なできごとであった。干拓が進み、中央排水路と西部調整池が遮断され陸路となり、現在は橋の面影も残されていない。

次号につづく

むかし アソビ

あそび 遊び (四)

宮本博司

人形あそび

さまざまの中にもある女の子の遊びである。ホール紙に人形の顔を書いてあるもの、布やセルロイドで出来ている人形に、千代紙など物によつては、赤ん坊の着物をきせる。

又、夏になると、庭先のほほ

子の実をとり人形遊びをする。女の子は、小さい時から、みんな大きくなったうお嫁さんに、そしてお母さんになることを望んでいた。

・セツセツセ(遊びの名稱不明) 仲よしの二人でやる遊びである。まず向い合つて相手を打つように三回手を合せる。その後、腕を交互にして相手の手に合わせる(打つ)これを歌に合せ繰り返すのである。 数え歌「セツセツセ」からは「しまり」の学校唱歌「茶摘み」を唄う。

夏も近づく八十八夜トントン

野にも山にも若葉が茂げるトントン あれに見えろは茶摘みちやな、いかトントン

あかねたすきに菅の笠。 この外「モシモシ電よし」「浦

島大柳し等が唄われた。

〇〇とこゆく 上総の山へ
上総の山から 谷底みれば
とにかく歌いはじめに「セッセ
ッせしが必す入るのである。
以下次号

ナンバン物語

A 生

姓氏 (一)

酒々井町は人口急増地区として
十年間に約二倍となっております。

そこで、過日配布された電話帳に
よって姓氏の数を調べてみました。その
結果次のような数字が得られました。
電話帳でありますから、正確な
世帯数ではありませんが、大体の
傾向は判るでしょう。

昭和五十年末調査したときの村
衆戸数は、二一五五戸でしたが、
今回は三、九四七戸で一七九二戸の
増加となっております。

姓の種類は一、四三三種と随分
多く、多彩となっておりますに驚
きます。

一姓一戸の姓も意外に多く
九三九姓もありました。

58年末		50年末	
姓	戸数	姓	戸数
1 鈴木	88	1 高橋	51
2 高橋	82	2 鈴木	36
3 香藤	71	3 齊藤	36
4 伊藤	64	4 京増	34
5 京増	43	5 伊藤	32
6 佐藤	41	6 福田	31
7 福田	41	7 木村	26
8 福青	40	8 木村	25
9 林	36	9 木相	24
10 田中	32	10 青木	23
11 木村	31	11 綿藤	21
12 松本	31	12 藤原	20
13 石井	30	13 子安	18
14 荻井	30	14 松本	18
15 山本	29	15 石井	18
16 吉田	29	16 小島	17
17 綿藤	28	17 田原	17
18 大塚	28	18 加藤	16
19 加藤	28	19 菅藤	16
20 中村	28	20 藤内	16
21 内藤	27	21 木佐	16
22 相模	27	22	
計	3919	計	2155

以上の表によつて、比較してみ
ますと、トップは高橋から鈴木
に変わりました。鈴木姓は、全国一
位とのことですが、酒々井でもトッ
プを占めるようになりまして、
上位を占めている、香藤、伊藤、
佐藤、青木、林、田中などの姓は
全国的に多くある姓であるから人
口増とともに多くなるのは当然であ
りますが、他町村には少ない姓の京
増姓が五位となつてゐるのが注目さ
れます。以下次号

編集室だより

〇一月二十九日の、東京名園めぐり
は雪あとの寒い日であったが、男八
名女三十三名の参加者があり、電車

バスに乗降に役員は気をつか
い、またが子庭外の深川八幡、
成目山深川別院にも参拝して
帰りました。

二月七日の七草かゆを食べる会は
参加者六四名と満席、調理方
の奥さん達は大忙しでした。

野草の会は今年も寒くて花の方
はさぼりしたか、寺崎城址
大田権現など旧跡探訪を求
めて好評でした。

飯高植林方面の見学会はA
B、C班合計一〇八名の参加者
があり、A班は寒風の中日、B
班は雨の中、C班は好天に思
われました。

三月二十五日の文化財愛護活動
は、上岩橋貝層、横穴古墳等
川清掃は十六人、午後の伊藤松
並木枯木伐木、清掃は十三人の
奉仕をうけました。

会計報告

◎七草かゆを食べる会 59年2月7日
収入 会費 500 × 64 32,000.-
支出 茶 26,193.-
計 33,393.-
差引不足 1,390 御土研へ補助

◎飯高植林外見学会 59年3月13・16・27日
収入 会費 1,000.- × 108 108,000.-
計 108,600.-
支出 心又代 3回 3,000.- 24,000.-
掛古茶代 120 × 540 54,800.-
拝観料 榎福寺 3回 9,016.-
竜尾寺 6,000.-
中村植林 3回 3,000.-
計 106,800.-
差引残 1,300.- 御土研へ

新会員紹介

411 林 七平	419 永嶋 静子
412 木内 正治	420 林 よし
413 江沢 武夫	421 及川 董
414 高橋 てる	422 篠田 つね子
415 河上 嘉代子	423 青木 一
416 吉野 君代	424 香藤 琴
417 吉野 智恵子	425 遠藤 梅子
418 藤崎 ちよ子	

郷土研 行 事 案 内

	四 月	五 月	六 月
古文書 学習会	7日(土) 午後1時30分 中央公民館	12日(土) 午後1時30分 中央公民館	2日(土) 午後1時30分 中央公民館
神社・石佛 遺跡調査	8日(日) 午前9時 中央公民館集合	6日(日) 午前9時 中央公民館集合	3日(日) 午前9時 中央公民館集合
野草の今 名勝探訪	24日(火) 午前11時 <u>山菜を食べる会</u> 先着50名 会費500円 申込受付 4月10日 9時より	3日(祝) 午前8時20分 <u>京成酒々井駅集合</u> 真間子茶堂-一里見園-野崎園- 一矢切-高砂-酒々井 雨天中止 (要旨)	17日(日) 午前8時20分 <u>京成酒々井駅集合</u> 堀切喜諸園-水元公園- 高砂-酒々井 (要旨) 雨天代場 要旨
文化財愛護	4月14日(土) 墨 3412(1)支群生地草刈り 午後1時 公民館前集合	午後1時30分 現地集合	雨天代場 4月21日(日)
町内史跡 めぐり ハイキング	6月10日(日) 午前9時 公民館前集合 勝蔵院-酒の井-石松碑-精覚古墳-新堀双体道祖神-中川双体道祖神 追分不動道標-大鷲神社 <u>辨当持参</u> 徒歩約4キロ (雨天代場 7月1日)		
県内 見学会	6月5日(火) A 8日(金) B 各38名 13日(木) C 見学地 加曾利博物館-千葉城-千葉寺-千葉港-県美術館	会費 1,500円 昼食代含む 出発 午前8時30分 公民館前 申込受付 4月10日 9時より	

郷土研究会 日誌

1月5日	郷土研今報 3号発行	
1月21日	総会準備委員会	2期 18名
1月26日	総会	120名
1月29日	東京名勝見学会 後祭園外	参加者 41名
2月4日	古文書学習会	7名
2月7日	野草の今を食べる会	64名
2月22日	中世道跡調査 飯積・伊藤	9名
3月10日	古文書学習会	8名
3月11日	中世道跡調査 品術・新坂	4名
3月13日	飯高植林外見学会 A班	38名
3月15日	総会 4.10.6月期の事業計画を作る	18名
3月16日	飯高植林外見学会 B班	34名
3月17日	野草の今 井崎・大田方面	24名
3月25日	文化財愛護活動 土浦商貝所外	16名
"	伊藤新坂木	12名
3月27日	飯高植林外見学会 C班	34名

●加曾利博物館
 国指定史跡、わが国最大の真鍮で園内に埋蔵品があり展示
 されている。また、藤原にまつた代官田舎の遺構も残されて
 いる。

●千葉城
 千葉氏の居城の跡に揚子山に造られた。天守閣跡の遺跡
 である。

●千葉寺
 飯東三十三観音の二十九番札所。古い歴史のある寺
 である。境内に粟指走り大銀杏がある。

●千葉港
 戦後拡張された港で、輸入高日本一となっている。今も
 船に乗りこ港内を一巡する。

●県立美術館
 県下唯一の県立美術館で、常時各種の展覧会が開かれている。